

# 来年度の農業予算の 編成方針は



**清水 欣也 議員**

**清水** これまで、わが町の基幹産業は農業と位置付けられていながら、農業関連予算は年々減少している。

また、予算総額に占める農業予算額の割合もだんだん下がってきており、11月現在54%の予算配分に止まっている。

そこで、平成23年度の予算編成にあたって、次の点について当局の考えを求める。

① 農業予算の編成方針は、来年度の農業予算の編成にどのような考えで臨むか。

② 農業対策予算を増額配分すべき。

町の財政状況は、現在、比較的安定していると認識して

いる。また、国においては、来年度においても相当程度の交付税や交付金の地方配分を行うとしていることから、農業を町の基幹産業とするにふさわしいものにするために、来年度予算を大幅に増額すべきと思うがどうか。

③ 町独自の積極的な攻めの対策が必要ではないか。

わが町の農業政策は、国・県の施策が中心で、それも補償、救済対策が柱となっている。

国・県の施策中心に止まらず、町単独で思い切った事業に挑戦して現状を変えてみる。そのような時期にきているのではと考えるがどうか。

④ 県が設置した「農林漁業振興臨時対策基金」をどのように活用していこうと考えているか。

## 町長

① 農業経営に創意工夫を凝らしながら、意欲

ある認定農業者、集落営農組織などに対して積極的なかさ上げ助成ができないかなど、町単独での有効な事業を検討

するよう、担当部署に指示しているところだ。

② 町の基幹産業は農業とされながら、町の財政規模が拡大したにも関わらず、農業予算の割合が縮小しているのは問題だという指摘はもつともである。

なぜ、このような状況になっているのかについて検証しながら、新年度予算編成を進めたい。

③ 指摘のように、わが町の農業対策には特色のある施策というものが余りなかったように思う。

問題は、それでは何をやるか、何に集中してお金を投資するかであるが、現在いろいろ検討を重ねているところである。

また、これまでよりは思い切ったという形のものを出したいとは考えているが、今それが何かということが見えてこない。

ぜひ、皆さんからも良いアイデアをいただきたいと思っ

**農林課長** ④ 主な活用案として、

- ・ 町振興作物の転作奨励金における国の単価助成に格差があつた場合の激変緩和措置としてのかさ上げ助成
- ・ 減化学肥料、減農薬による特別米栽培認定のための認証取得申請費用への助成
- ・ 地元の畜産農家の完熟堆肥を利用した資源リサイクル・循環型農業への助成
- ・ 集落営農組織の法人化への助成

- ・ 新たに集落営農組織を結成した場合の国・県補助への町かさ上げ助成
- ・ 面積増によって経営規模を拡大した認定農業者などに対するかさ上げ助成
- ・ 葉タバコやミョウガ等の根茎腐敗病などを駆除するための消毒剤購入助成
- などを考えている。

また、JA秋田やまもとの野菜の集出荷施設建設事業に対する補助も考えている。